

## 本学在学生に対するアンケート調査（平成 26 年 3 月卒業）

はじめに

本学に対する学生の満足度等に関する意見を聴取することを目的に、2年間の勉強を終えて卒業を迎える学生を対象にアンケート調査を実施しました。

### 1. 調査の方法

調査方法は、各設問に対して5つの選択肢から1つ選び(設問(9)は2つまで選択)、マークシートに記入する方式です。

### 2. 調査の結果

以下に調査結果を示します。同時に平成 20 年度、平成 25 年度に実施した調査結果と比較して、変化や傾向等を検討しました。

#### (1) 本学へ進学した理由について質問をしました。

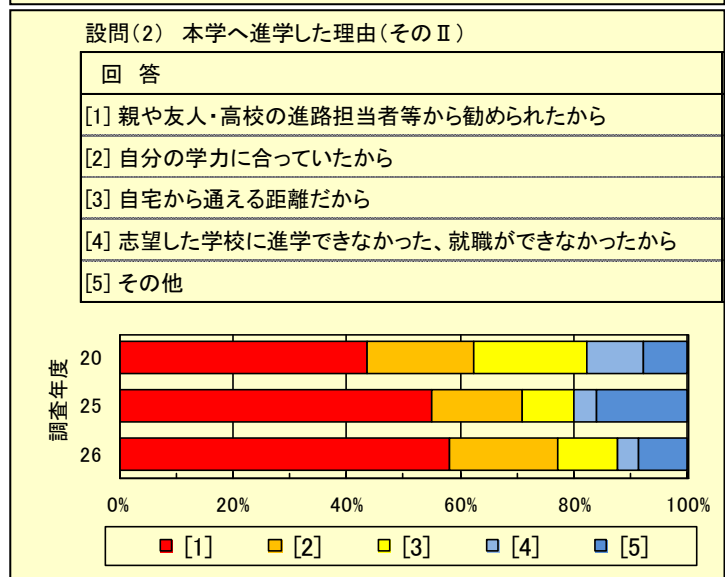
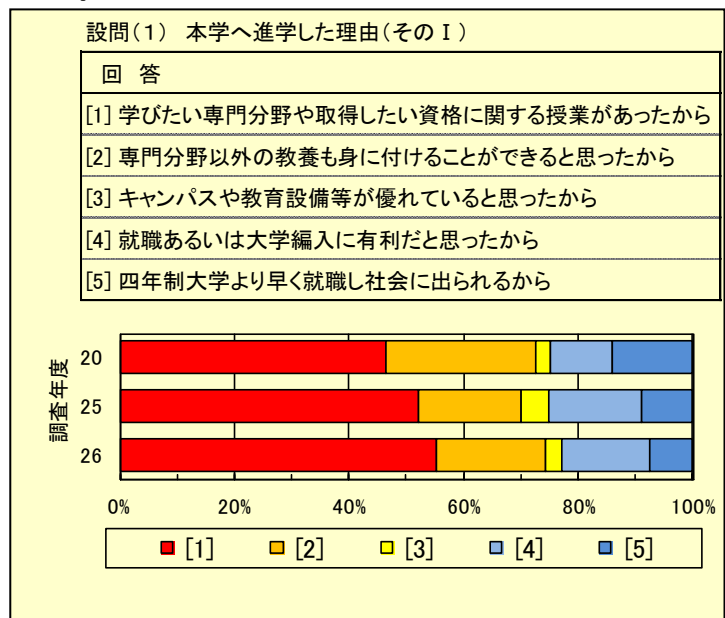
最初に、本学を進学先に選んだ理由を2つの群(設問(1)、(2))に分けて質問しました。

設問(1)の本学を進学先に選んだ理由では、「[1]学びたい専門分野・資格に関する授業があったから」が55%と最も多く、過去2回の調査と比較して増加傾向を示しています。

次いで「[2]専門分野以外の教養も身に付けることができると思ったから」が19%、そして「[4]就職や大学編入に有利だと思ったから」が15%と続いています。[1]と[4]の選択肢を選んだ割合は、両者を合わせると70%になります。最近ようやく社会の経済状況も明るさを見せ始めましたが、高校生は依然として厳しい就職状況にあると感じているようです。

設問(2)では、設問(1)とは少し見方を変えた「本学を進学先に選んだ理由」を質問しました。

この設問で最も多かった回答は、「[1]親や友人・高校の進路担当者等から勧められたから」で55%を占め、過去2回の調査と比較してその割合が増加しています。本学に進学した半数以上の学生が、進路に対する相談を保護者や進路担当の先生と密接に相談していることが伺われます。

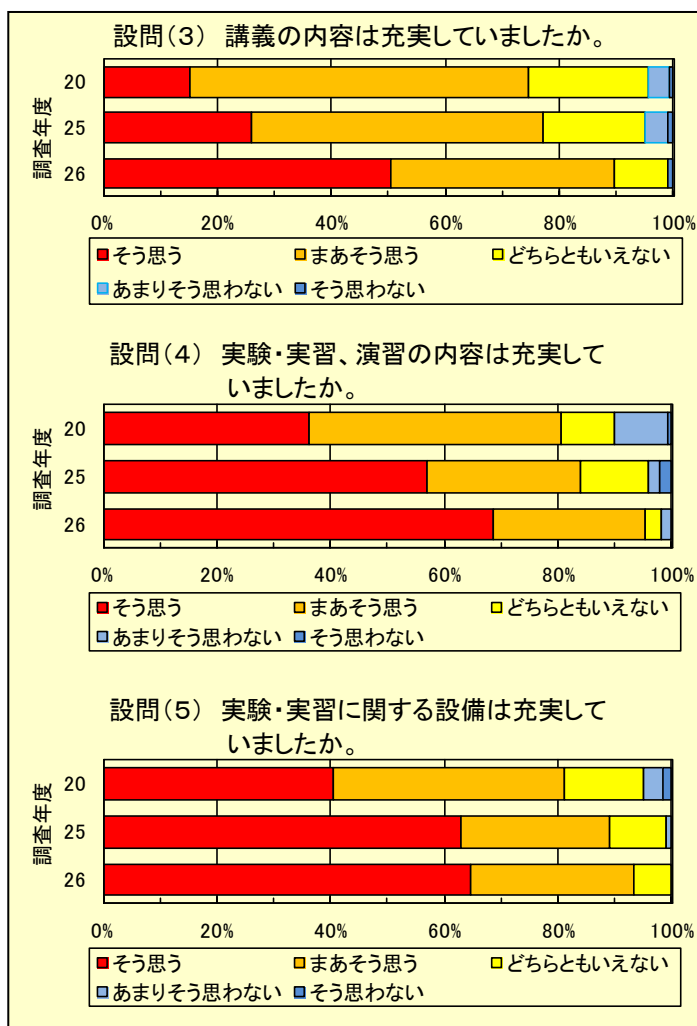


(2) 講義・演習、実習の内容、設備等の充実度について質問をしました。

設問(3)は、講義内容が充実していたかを質問したものです。“そう思う”と回答した割合が大きく増加し、“まあそう思う”と回答した割合を加えると、90%近い学生が充実した講義内容だったと感じています。この割合は、過去の調査に較べて10ポイント前後増加しています。

設問(4)は、実験・実習や演習の内容が充実していたかを質問したもので、主に実技を伴う授業科目です。70%近くの学生が“そう思う”と回答しており、この割合は平成20年度の調査と比較して30ポイント近く増加しました。さらに、“まあそう思う”と回答した割合を加えると95%の学生が授業内容を肯定的に評価していることが分かりました。

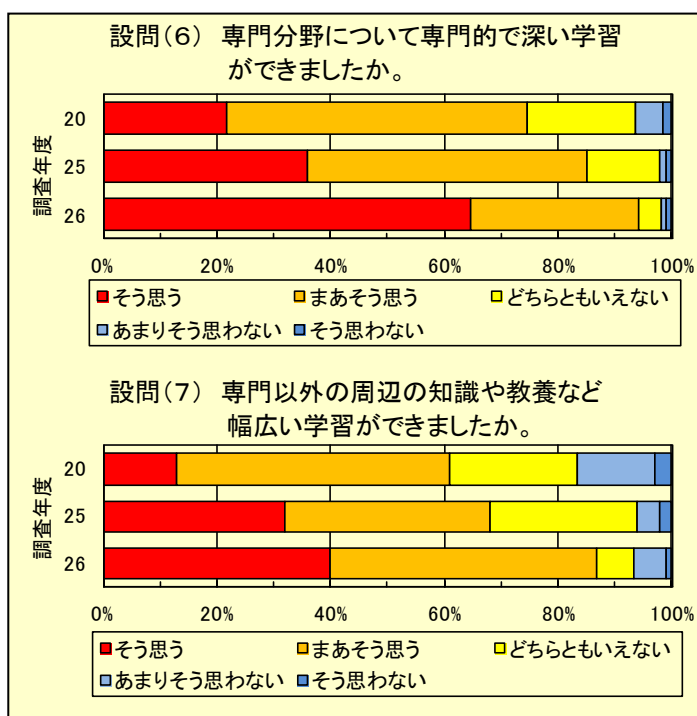
また、設問(5)の、実習・実験に関する設備が充実していたかの質問に関しても、65%の学生が“そう思う”と回答しています。この割合は昨年度に比べると漸増していますが、平成20年度の調査と比較すると、25ポイント以上増加しました。



(3) 学習した内容について質問しました。

設問(6)では、専門分野について専門的で深い学習ができたかを質問しました。“そう思う”と回答した割合は65%で、過去の調査と比較して大きく増加しています。そして、“まあそう思う”と回答した割合を加えると94%の学生が専門分野に関して深く学習できたと感じていました。

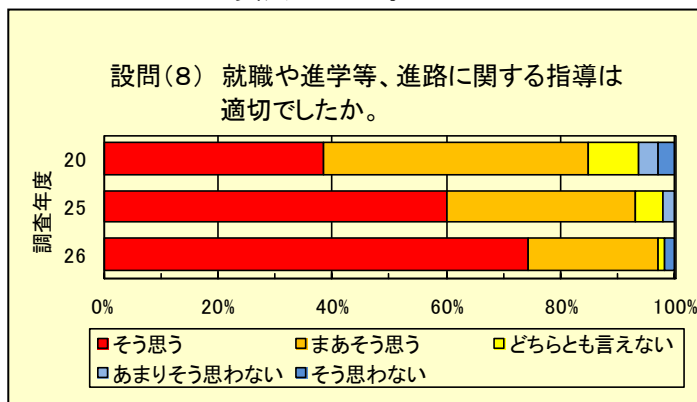
設問(7)では、専門以外の周辺の知識や教養など幅広い学習ができたかを質問しました。この設問に対して、“そう思う”と回答した割合は40%で、専門分野の場合と同様に増加しています。そして、“まあそう思う”と回答した割合を加えると87%の学生が専門分野以外でも幅広い学習ができたと回答していました。



(4) 就職・進学への進路に関する指導が適切であったかについて質問しました。

設問(8)は、就職や進学等、進路に関する指導が適切であったかの質問です。

74%の学生が“そう思う”と回答しました。昨年度と比較して14ポイント増加しており、年々増加する傾向にあります。そして、“まあそう思う”と回答した割合を合わせると97%の学生が、指導は適切であったと肯定的に評価しています。今回のアンケート調査時には、ほぼ全学生が卒業後の進路を決定していました。



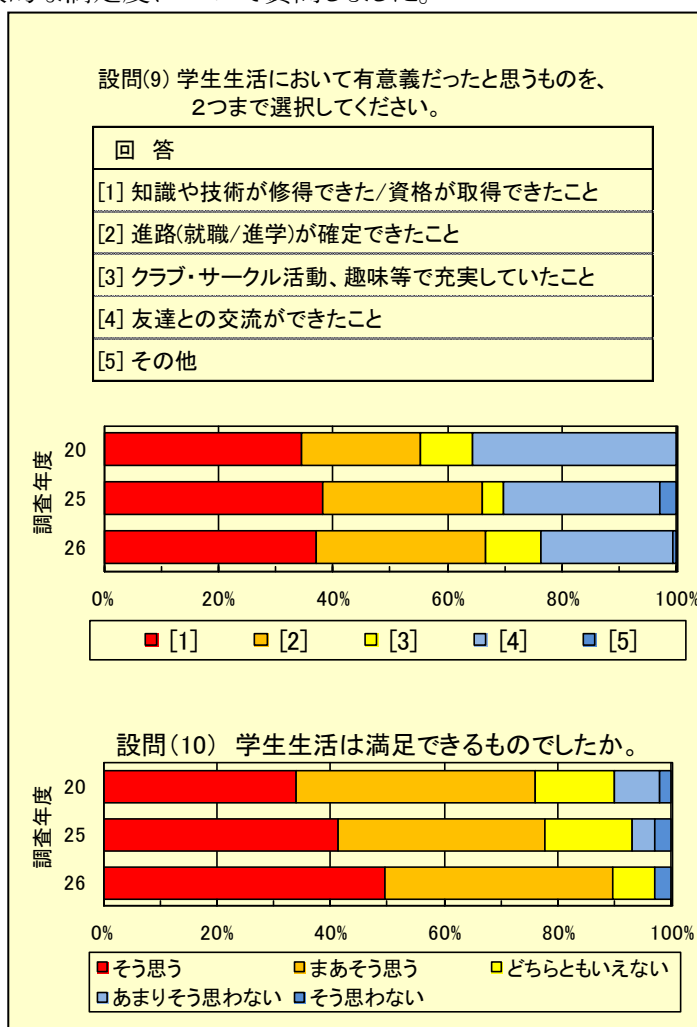
(5) 大学生活で有意義だったこと、及び全般的な満足度について質問しました。

設問(9)では、大学生活において有意義だったことを2つまで選択してもらいました。最も多かった回答は「[1]知識や技術が修得できた/資格が取得できた」で37%、次いで「[2]進路(就職/進学)が確定できたこと」が30%であり、70%近くの学生は資格取得と進路の決定状況を有意義なものとして捉えています。

最後に、設問(10)では学生生活が満足できるものであったかを質問しました。

この設問に対して、約半数の学生が“満足”と回答しています。そして、この割合は年々増加の傾向を示しています。さらに、“まあ満足”と回答した割合は40%を占め、“満足”と“まあ満足”と回答した割合は合わせて9割を占め、多くの学生は本学での学生生活に満足して卒業したと考えられます。

一方、“どちらともいえない”と回答した学生の割合は過去2回の調査結果と比較して減少していますが、今後もより満足度が上げられるように努めなければならないと考えています。

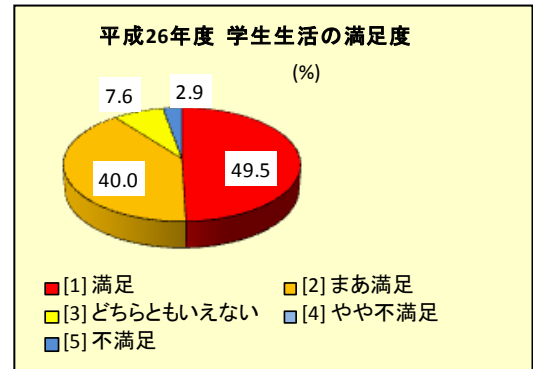


### 3. まとめ

平成27年2月に、2年生を対象とした本学に対する学生アンケート調査を実施しました。このアンケート結果から、学生生活に関して、約9割の学生が“満足”あるいは“まあ満足”と回答していました(右図)。また、講義等の授業内容や実験・実習の設備等に関しても、9割前後の学生が“充実していた”あるいは“まあ充実していた”と考えていることが分かりました。

これらの結果は、これまで本学が進めてきた授業等の改善策や施設設備の充実の方策等が学生に評価されていることを示していると考えられます。

今後も、より多くの学生の満足度を向上させるため、これらの努力を継続しなければならぬと考えています。



平成27年4月22日  
自己評価委員会報告